

委員会は：

1. 日本が**来訪神：仮面・仮装の神々**（No. 01271）を人類の無形文化遺産の代表的な一覧表への記載に向けて提案したことを確認する。

来訪神行事は、日本各地、特に東北、北陸、九州そして沖縄地方において、新年や季節の節目となる日に毎年開催される。これらの行事は、外界から現れる神々である「来訪神」がコミュニティを訪れ、幸福と幸運を伴う新年あるいは新しい季節をもたらすという人々の祈りに由来する。行事の間、地域の人々は異様な衣装と恐ろしい仮面を纏った神々に仮装し、家々を訪れ、怠惰を戒め、子どもたちに善い行いをするよう教える。家の主が神々を特別なご馳走でもてなして訪問を締めくくったり、または路上で行事が執り行われるコミュニティもある。特定の年代の男性が来訪神になるところもあれば、女性がその役割を担うところもある。これらの行事は異なる社会的、歴史的背景をもつ地域において発展してきたため、多様な形態を持ち、様々な地域的特色を反映している。行事を執り行うことによって、地域の人々、とりわけ子どもたちは、アイデンティティを造成し、コミュニティへの帰属意識を発展させ、相互の絆を強めている。祖先の教えに従い、コミュニティの人々は、関連する知識を継承する責任を持つ伝承者としての役目を務めつつ、行事を準備し、執り行う責任を共有し、協力している。

2. 提案書に含まれる情報をもとに、提案が、人類の無形文化遺産の代表的な一覧表への記載のための以下の基準を満たしていると決定する：

R.1: 提案書は、家族・コミュニティの行事であるという著しい性質と、その形態の多様性を強調しつつ、提案案件を非常に明確に描写している。この行事は、子どもたちに道徳や行儀を教え、家族との絆を強め、地域の伝統への敬意を増進させることで、子どもの教育に重要な役割を果たしている。協同と共有を通じ、コミュニティのアイデンティティが育まれ、継続的に受け継がれていく。

R.2: この案件の記載は、無形文化遺産の包括性と、性別を超え、全ての世代を一つに結びつける力についての認知を向上させる。来訪神行事は日本の様々な地域で執り行われ、地域の歴史的、自然的、社会的背景を尊重している。それゆえ、文化多様性は来訪神行事に内在している。同様に、仮面や地域の行事の多様な形態が示しているように、来訪神行事は人類の創造性も証明している。

- R.3: 来訪神行事を保護するための過去及び現在の取組は、主導的役割を果たす地域の保存会及び来訪神行事保存・振興全国協議会とともにこの無形文化遺産を保護し、伝承していくという、地域のコミュニティの長期的な約束を証明するものである。十分に明確にされた保護措置は、過去のイニシアティブを生かし、この行事の伝承、特定、普及促進を含んでいる。提案書は、提案されている保護措置の計画段階からコミュニティが参画していることと、彼らがその実施の中心的役割を果たしていることを明確に示している。
- R.4: 提案書は、議論や会合が行われたことを強調しつつ、その準備の全ての段階におけるコミュニティの人々の参加を明確に説明している。地域のコミュニティは、それぞれの保存会や地方自治体、来訪神行事保存・振興全国協議会によって代表され、その全員が自由な、事前の、説明を受けた上での同意を与えている。
- R.5: 来訪神行事が10の異なる地域で実施され、異なる名称で知られていることから10件の仮面・仮装の神々の来訪の行事は、1977年から2017年にかけて、個別に日本の無形文化遺産の目録に含まれた。行事の説明は十分であり、必要な情報を全て含んだ、国内の目録からの文書による証拠が提供されている。コミュニティの人々は、目録の作成と更新に能動的に参画している。
3. 来訪神：仮面・仮装の神々を人類の無形文化遺産の代表的な一覧表に記載する。
4. 提出国が大変よく調べられ、明確な構成をもつ提案書を提出したことを祝い、また、提案された無形文化遺産のカギとなる側面を全て含み、視聴者がこの無形文化遺産の詳細を理解できるようにするビデオを提出したことを称賛する。
5. この記載が、運用指示書のI.6に従い、2009年に記載されたこしきじま 甕島のトシドンに替わるものであることを確認する。（注）

注) 「甕島のトシドン」を拡張し、国指定重要無形民俗文化財10件をグループ化して記載したことを指している。